

第6学年 体育科学習指導案

指導者

1 単元名 「跳び箱運動」(全7時間)

2 学習を進めるにあたって

めざす子どもの姿

- 自分の力に合った安定した基本的な支持跳び越し技(切り返し系, 回転系), 及びその発展技ができる子ども(技能)
- 安全に気をつけて, 進んで運動に取り組み, 友達との関わり合いの中で運動の楽しさや喜びを感じることができる子ども(態度)
- 跳び箱の技のポイントや自分のつまずきを知って課題をもち, 自分の課題に合った練習の場や方法を選ぶことができる子ども(思考・判断)

こんな教材で こんな学習過程で

- いろいろな向きや高さの跳び箱のできる技をよりよくして, ふわっとした心地よさを味わったり, 練習方法を工夫しながらできそうな技に挑戦してできるようになった喜びを味わったりすることが楽しい運動である。
- 学習全体の見通しをもたせ, 今の自分の力を知り, 自分の力に合った課題をしっかりとつかむことができるよう, 学習の始めに財産調べを2時間設定する。
- 跳び箱運動の基礎・基本となる動きの感覚を身につけるために, 「忍びタイム」を毎時間の学習の始めに設定する。
- めあて1では, 今できる技や習得した技で技をよりよくし, めあて2では, 自分のできそうな技に挑戦して跳び箱運動を楽しめるようにする。
- できる技や習得した技で楽しんだり, 新しい技に挑戦したりすることができるように, スパイラル型の学習過程を取り入れる。

こんな支援で

- ① 評価規準の活用
運動の特性や児童の実態を踏まえ, 評価規準を設定し, 個に応じた支援を行う。
- ② 場の作り方
めあて1めあて2の場を提示し, 自分たちで協力して場作りができるようにする。めあて1では楽しみ方に合った場を, めあて2では自分の課題に合った場を選択し, 取り組めるようにする。
- ③ めあてのめあて
学習ノートを活用して, 自分の力の向上を確認できるようにする。めあて1では, 自分のできる技の楽しみ方が意識できるノートにする。めあて2では, 挑戦する技を記入し, 課題を意識できるように気をつけるポイントが書けるようにする。
- ④ 教師の声かけ
めあて1では, 楽しんで活動している子を紹介し, きれいに跳ぶポイントなどを子どもたちに聞き, 全体に広めることができるようにする。めあて2では, それぞれの場で, 課題解決に向けた活動ができるように支援や助言をしていく。
- ⑤ アドバイスカードの活用
子どもたちで助言し合うポイントや場の工夫の仕方などがわかるようにしておく。また, 情報機器を使って技のイメージをつかんだり, ポイントを確かめたりできるように準備をする。

こんな子どもだから

- 体育の学習が大好き・どちらかと言えば好きの子どもが25名。
- 跳び箱運動が大好き・どちらかと言えば好きの子どもが20名。
- 跳び箱運動の学習で楽しいと感じるのは「できる技が増えた」「記録がのびた」「友達と協力してできた」等をあげ, 嫌だなと感じるのは「おもしろくない」「跳ぶのがこわい」「できる技が増えない」をあげている。
- 「マット運動」の学習では, できる技で楽しんだり, できそうな技に意欲的に取り組んだりする姿が見られた。
- 準備や片づけを積極的に取り組む子もいるが, 渋々する子どももいる。また, 自分のめあてを意識せずに活動したり, 自分の課題に合った場が選択できなかつたりする子どももいる。

第6学年 体育科学習指導案（本時案）

指導者

1 本時 平成24年 月 日（ ）公開Ⅱ 本校体育館

2 本時の中心となる評価規準

- 約束を守り、友達と助け合って技の練習をしている。(態度)
- 課題解決の仕方を知るとともに、自分の課題に合った練習の場や方法を選んでいる。(思考判断)

3 本時学習を進めるにあたって

前時までの学習で子どもたちは、めあて1では自分のできる技をよりよくして、様々な楽しみ方で技に取り組んできた。また、めあて2では練習の場を作りかえながらできそうな技に挑戦してきた。

そこで本時では、めあて1で跳び箱の高さや向きなどで楽しみながらも踏み切り・着手・着地を意識させて跳び箱運動に取り組ませたい。そのために、踏み切り・着手・着地を意識して取り組んでいる児童を称賛し、全体に広げていく。めあて2では、できそうな技の獲得にむけて、自分の課題に合った場や練習方法を選ばせ、同じ場の友達とかかわり合いながら活動させたい。そのために、写真や動画を撮って自分のつまずきポイントを確認したり、必要に応じてアドバイスカード・DVDを提示し、場作りを紹介したりしていきたい。また、友達にアドバイスしたり補助をしたりして取り組んでいる子どもを称賛し、全体に広めたい。

4 準備 跳び箱、マット、踏み板、セーフティーマット、ケンステップ、踏み切り板距離調節器、掲示物、パソコン、DVD、アドバイスカード、CDデッキ、カメラ

5 展開（6／7）

	子どもの主な活動	教師の支援活動
0	1 協力して準備をし、めあての確認をする。 ○協力して、安全な場作りをする。 ○めあての確認をする。 ○まわり方を確認し、忍びタイムをする。	○安全に友達と協力して場作りができていないか確認する。
8	2 跳び箱運動をする。 めあて1 今できる技をよりよくして、跳び箱運動を楽しもう。 (楽しみ方) 高さ・向き・踏み切りや着地のきよりなど	○着手・着地などを意識して取り組む児童を称賛していく。
	めあて2 できそうな技に挑戦して、跳び箱運動を楽しもう。 (挑戦する技) 台上前転・かかえこみ跳び・首はね跳び・あおむけ跳び・頭はね跳び・前方倒立回転跳び (予想される児童の活動) ○見てほしいポイントを友達と確認し合う。 ○練習の場を作ったり、作りかえたりする。 ○アドバイスカードなどをもとに、技のポイントを友達とアドバイスしあいながら練習する。	○課題解決がうまくできていない子どもやグループに、必要に応じてカードなどを提示したり、補助をしたりする。 ○アドバイスカードやパソコンでいつでも技のポイントを、写真や動画で自分のつまずきを確認できるようにしておく。 ※約束を守り、友達と助け合って技の練習をしている。(態度) ※課題解決の仕方を知るとともに、自分の課題に合った練習の場や方法を選んでいる。(思考判断)
37	3 学習をふり返り、次の学習の見通しをもつ。 ○グループで活動のふり返りをし、学習ノートに記入する。 ○全体交流をする。 ○片付けをする。	○できるようになったことや技のポイントなどを話し合い、次時の意欲をもたせる。